

令和 4 年度 食育推進事業 特徴的な取り組み

1 市内関係機関との情報共有

目的～各機関の食育活動が、食育推進計画に基づいていることを知ってもらう
各機関が把握している市民の食の実態について教えてもらう
実態から、各機関、市が食育の推進のためにできることを考える

(1) 公立保育園園長先生 (R4.5.10)

- ・朝食欠食の家庭は実際にある。保護者が食べない習慣の家庭が多い。
- ・朝食欠食の子は、0～2歳児のうち、午前中のおやつがあるので、空腹を満たせるが、3歳児になり、午前中のおやつがなくなると昼食まで何も食べないので、機嫌の悪い子が出てくる。
- ・就寝時間が、1～2歳児でも、夜22時を過ぎている子どもがいる。
- ・間食は、ジュースやお菓子を必要以上に食べている子どもがいる。

→対策～ジュースや飲み物に入っている糖分の資料を作成して、各園持ち回りで掲示。
保護者と子どもが学習できる場を設ける。R5.2～3 実施。

(2) 小中学校栄養教諭 (R4.6.14)

- ・栄養教諭が把握している実態から考えると、計画策定時のアンケートは、一部の子ども達が正確に答えていないことも考えられる。朝食については、「朝食を食べないことはよくない」もしくは「朝食を食べないことが悪くて格好いい」というバイアスがかかっていると思う。
- ・小中学校としても、朝食欠食は課題と思っているが、コロナ禍で教職員が、保護者に会う機会が激減。子どもに「保護者と買い物に行った時に、朝食用のパンをカゴに入れて買ってもらうんだよ」等と伝えて、子どもが行動して食べられるようになった例もある。

(3) コープフーズ (R4.11.27)

- ・お弁当、お惣菜の売れ筋は、不動の1位がカツ丼。昼はカツ丼、夜はお弁当が売れる。昼は忙しいので、単品のお弁当、夜はゆっくり食べたいので、お弁当系が売れる。男性はカツ丼とおにぎり、女性はカツ丼単品か＋ヨーグルトや野菜ジュースという印象。
- ・お菓子はチョコレートが他府県と比較しダントツで売れる。特に大容量の袋。
- ・減塩醤油を使ってつくっているお惣菜もいくつかあるが、減塩醤油を使っていると表示していない。

→スマートミール制度について、情報提供

(4) 生活クラブ (R4.12.27)

- ・定期的に 30 代に食のアンケートを実施。長い経過でみると、白米の食べる頻度、納豆等のごはんと一緒に食べる食品の使用回数の減少、調味料の使用頻度も下がっていて、できあがったものや冷凍食品を購入して食べるが増えていると感じている。
 - ・地域で、夏休みにコンビニに毎日午前中にお弁当を買いに行く子どもがいる。最初はおにぎりやサンドイッチを購入していたが、だんだんスナック菓子等、お菓子を買うようになった。身体を作る時期の子どもの食生活が心配。
- 食に関心のある子どもも、関心がない子どもも一律に食について体験や学習ができる機会が必要。

(5) タカシマファーム (R5.2.8)

- ・大人も子どもも米を食べる機会が減っていることは把握している。米の美味しさを知ってほしい。
 - ・子どもは正直だから、お菓子をおいしいと食べることはそうだと思うが、米も野菜も本当に新鮮な物を食べたならおいしいと思ってもらえる。
 - ・コロナで休止をしているが、JA で小学生を対象に、田植えから稲刈り、収穫した米でおにぎりを食べるまで体験の学習をしていた。体験をしながら食について考える機会をつくりたい。
- 令和 5 年度の事業実施に向けて、再検討。

2 道都大学の協力で、食育アンケート分析 (R5.2)

目的～第 3 次食育推進計画策定時に実施したアンケート結果は単純集計がメインだったため、小学 5 年生、中学 2 年生のアンケートにクロス集計をかけて、項目同士の関連を把握する。

結果～朝食を食べないことと体調不良については、全ての項目で弱いながら相関があった。

〈大学生に聞いた食の実態〉

○実家暮らし (2 名)

- ・学校やアルバイトで帰宅が遅いので、食事は 1 人で食べることが多い。
- ・夕飯は家族そろって食べるようにしている。

○1 人暮らし (2 名)

- ・実家暮らしの時は、きょうだいに弁当を作っていたが、1 人になると張り合いがなくてコンビニで買うことが多い。お弁当は高いのでカップ麺のことも多い。課題や趣味のことをしていると就寝時間が遅いので、朝は授業ギリギリまで寝て、朝食は食わずに学校へ行く。
- ・朝食は食べないことが多い。睡眠か朝食かをとると、寝る時間が遅いので、どうしても睡眠をとってしまう。

3 庁内関係課で子どもの食の実態について課題共有 (R4.11.1)

目的～各課が把握している子どもの食の実態について共有し、解決に向けた方法を検討。

参集範囲～子ども家庭課、学校教育課、学校給食センター、健康推進課

- ・3歳児健診では朝食を100%食べているが、小学校に上がると80%になる。この数年間でなぜ食べなくなるのか。
- ・イベントを実施しても、参加するのは食に関心のある家庭。本当に情報を届けたいのは、食に関心のない家庭。
- ・学校給食で1日の栄養をとっている子どもも実際におり、夏休みや冬休みは健康状態が心配な子どもも中にはいる。
- ・例えば、朝食をどこかで食べられるような場を定期的に設けても、毎回そこに同じ子どもが来ると、「あの子は朝ご飯を食べていないんだ」と子ども同士の中で話題になっていく。いじめのこともあり、慎重に考えた方がよい。

→対応：年長児の保護者がほぼ全員集まる小学校就学前説明会で、脳の育ちと朝食について出前講座をR5.2 西部小学校、東部小学校でモデル実施。

テーマ「子どもの脳の育ちと朝ごはんの関係」

4 妊婦さんへの保健指導開始 (R4.9～)

目的：低出生体重予防及び妊婦の生活習慣病予防のため、妊婦が、妊婦健診結果に基づき、食や生活について学習する。

妊婦さんの食習慣

- ・胎児のために、食習慣を見直した。野菜をしっかり食べて肉も魚も頻度を考えて食べるようになった。
- ・自宅に炊飯器はない。主食やパンか麺類。
- ・夫婦2人暮らしなので、野菜は種類を多く買うと傷んでしまう。野菜を1～2個購入し、食べ終わったら次の野菜を買う。3日くらい、同じ野菜のメニューになる。
- ・調理はしない。食事は1日2食。うち1食は、コンビニでおにぎり1個。もう1食は、外食する。野菜を食べるのは、外食をした時の付け合わせのポテトくらい。
- ・実家に住んでいる。母が調理するが、コンビニの方が味がおいしいので、買って食べている。

《保健指導を受けての感想》

- ・野菜がなぜ必要か分かった。赤ちゃんの細胞分裂ができる条件があると知らなかった。
- ・野菜には、種類によって、多く含まれている栄養素が違っているとわかった。1種類だけでは不足するものがある。

5 防災食育センター



建物 完成イメージ図

令和4年度は本工事にかかる補助事業が採択され、令和4年7月から新築工事に着手しました。

令和6年8月中旬（2学期）の供用開始を目指し、工事を進めています



現在の施工状況（外観写真）



令和4年9月、地域コミュニティ施設として各種研修室や見学ホールなどを備えた、東旭川市学校給食センター（令和2年1月1日供用開始）の視察を行いました。

同施設の担当者とアレルギー対応給食や、給食提供及び施設管理に関する課題等について意見交換を行いました。



2階見学ホールは食育に関する書籍、食器や食缶が展示



4 地域の方が使用可能な研修室や調理実習室を整備

6 ボールパークを活用した食育の実施

ボールパークFビレッジ内に開設される「農業と食」をコンセプトとした「KUBOTA AGRI FRONT」について、食育の推進に活用していくため、運営事業者と連携した取り組みについて協議を開始している。